

# 富津市立保育所自己評価書

( 吉野保育所 )

- A → 大変よい
- B → よい
- C → 一部検討を要す
- D → 改善を要す

評価期間 令和7年4月～令和8年2月

令和8年3月

項目	内 容	評価 A. B. C. D	評価の根拠・改善策等
生命の保持・健康	家庭との連携を密にし、嘱託医との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の健康診断を受け、嘱託医と連携をとった。</li> <li>・未満児は一人ひとりの発育に応じて、十分に体を動かせるように関わったり、個人差に応じて食事が進められるようしたりしたので、健やかに伸び伸び育っていた。</li> </ul>
	愛情豊かな受容の下で、安定感を持って生活し、食事や午睡、遊びと休息など、快適な生活のリズムが形成されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳以上児は、園庭や保育所周辺の自然の中で体を動かし遊んでいたので自発的な活動につながっていた。</li> </ul>
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいる。	A	
人間関係	子どもたちが保育士等に思いや行動を受け止めてもらい、応答的な関わりの中で、安定感をもって過ごさせている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と遊びを通して関わる中で一緒に活動することの楽しさを味わったり、時には折り合いがつくように話し合ったりして、過ごさせていた。</li> </ul>
	生活や遊びの中で、身近な人への関心をもち、真似をしたり、ごっこ遊びをしたりして楽しめるようにしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士も少しずつ、子どもに任せていき、自分たちで解決できるよう関わっていたので、自分たちで考える力がついてきた。</li> </ul>
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付くよう促している。	A	
	生活や遊びの中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする意識が育つよう援助している。	A	

環境	安全で活動しやすい環境の下で探索活動を通して五感の働きを豊かにする機会を作っている。	A	・身近に自然環境があるので、四季折々の変化を楽しめるよう、散歩に出かけたり、戸外で遊んだり、活動の充実に配慮している。また、子ども達の「やってみよう。」「試してみよう」「なぜだろう?」という気持ちを大切にしてきたことで、意欲的な姿が育っている。
	生活や遊びの経験を重ねながら、形、色、大きさ、量、音などの物の性質に気付くよう働きかけている。	A	
	自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く機会を作っている。	A	
	日常生活の中で、数量や図形、標識や文字などに関心をもつよう心がけている。	A	
言葉	保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自分の要求や気持ちを伝えられるよう配慮している。	A	・保育士は、子どもの語彙を増やす前に、人とのつながりの中で言葉が生まれることを理解して関わっていた。応答的な関わりの中で、自分の気持ちが伝えられるようになってきている。
	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして言葉の感覚が豊かになるよう働きかけている。	A	
	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりできるように配慮している。	A	
	生活の中で必要な言葉の意味や使い方を知ることができるよう心がけている。	A	
表現	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れ諸感覚を使い楽しむ機会を作っている。	A	・子どもたちは葉っぱ、木の枝を動物や洋服に見立てるなど、想像を広げながら遊びを楽しんでいた。また、生活の中で経験したことを再現するごっこ遊びも楽しんでいた。保育士は子どものイメージがさらに広がるよう、必要な素材を準備し、十分な時間を確保するなど環境を整えてきた。その中で子どもた
	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わう機会を作っている。	B	
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむよう働きかけている。	A	
	生活の中で、保育士等や友達と感動を共有することや伝え合う楽しさを味わえるよう心がけている。	A	

			ちの想像力豊かに育っている。
保護者への支援	一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などの機会を作っている	B	<p>・保育参加を年2回実施した。1回目は6月の保育所に慣れた時期の様子をみていただき、2回目は10月の保育参加を体験してもらった。保護者は、我が子だけではなく、周りの子ども達とも関わられたので、保育所の様子を伝えることができた。</p> <p>・送迎時等、日常の会話の中で情報交換したり、個人面談を行ったりして、相互理解ができるように努めたが、保護者アンケートでは「相談する機会がなかった。」との回答が4%あった。今後は、職員からの声掛けに配慮し相談しやすい環境づくりに努めていきたい。</p> <p>・必要に応じて専門機関とのつながりを持ち、子育てをバックアップした。</p>
	家庭状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A	
	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	B	
行事	行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。	A	<p>・子どもが主体的に行事に取り組めるように、日々の保育から進めていき、職員間で共通理解できるよう会議を持ち計画して、進捗状況を確認しながら実施した。また、職員間で振り返りをして</p>
	保護者の願いや意見を取り入れている。	A	
	計画・実施・評価・改善の体制をとっている。	A	

			反省・改善点を見出し、今後に活かしている。
その他	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。	A	・個人情報の適正な取り扱いを職員全員に周知している。また、適切に保管している。
	園内研修を実施している。	A	
	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。	A	・キッズダイアリーを活用して写真付き記録の配信や連絡帳で子どもの活動の様子や感染症の流行を知らせ、予防について迅速に知らせることができた。